

BUDŌ

NEWS

今月のニュース



原沢久喜が初の栄冠を掴む

平成 27 年全日本柔道選手権大会

原沢久喜が初制覇



平成 27 年全日本柔道選手権大会





決勝＝原沢（右）対七戸。原沢が小外刈で有効を奪う



開会式の様子

平成27年全国日本柔道選手権大会が、4月29日、日本武道館で開催された。大会には全国の予選を勝ち抜いた精鋭42名が出場し、柔道日本一を懸けて覇を競った。

決勝は、原沢久喜三段（東京・日本中央競馬会）と七戸龍三段（九州・九州電力）が対戦。勝てばどちらも初優勝となる大一番は原沢が七戸から小外刈で有効を奪って勝利。

原沢は3回目の挑戦で初の天皇盃を手にした（詳細は4～11頁に掲載）。



決勝＝原沢（右）が七戸に大内刈を仕掛ける

平成 27 年全日本柔道選手権大会

決勝で見せた成長の証 22 歳新王者 原沢久喜

柔道日本一を決める平成27年全日本柔道選手権大会は4月29日、日本武道館で開催された。当日は、約7200人の観客が詰めかけ、優勝の行方を熱心に見守った。

決勝は、どちらも初優勝を狙う原沢久喜三段（東京・日本中央競馬会）と七戸龍三段（九州・九州電力）の顔合わせとなり、原沢が小外刈で有効を奪って接戦を制し、三度目の挑戦にして初の優勝を飾った。

3位には前年覇者の王子谷剛志四段（推薦・旭化成）と西潟健太四段（九州・旭化成）がそれぞれ入賞した。

また、本大会は本年8月にカザフスタン・アстанаで開催される世界選手権大会の100kg超級代表選手の最終選考会も兼ねており、大会終了後に開かれた強化委員会で七戸が代表に決まった。

大会は全国10地区の予選を勝ち上がった40名に前年優勝者と準優勝者を加えた42名が参集し、体重無差別で熱戦が展開された。

試合は国際柔道連盟試合審判規定で行われ、試合時間は6分。時間内で勝負がつかない場合は旗判定で勝敗を決した。



開会式

序盤戦ダイジェスト

▽第1ブロック

出場7回を数えるベテランの高橋和彦（新日鐵住金）は2回戦で垣田恭兵（旭化成）を大外落、3回戦で木下泰成（兵庫県警）を指導2の差で退け、昨年に続いてベスト8に残った。

25年大会準優勝の原沢久喜（日本中央競馬会）は、2回戦で体重163kgの橋本憲宗（岩手県警）を内股で跳ね上げ、きれいに一本勝すると、続く3回戦では、神谷快（筑波大）が反則負で自滅し、危なげなく準々決勝に進出した。

▽第2ブロック

鈴木桂治以来10年ぶりの連覇を狙う王子谷剛志（旭化成）は、2回戦から登場。岩田勝博（兵庫県警）に浮落と横四方固の合技で勝利すると、続く井上貴裕（ALSOK）を指導差で破り、順当にベスト8に残った。

昨年の全日本学生柔道体重別選手権100kg超級覇者の上田轄麻（明治大）は2回戦で山下涼輔（静岡県警）



2回戦＝原沢（手前）が内股で一本勝



2回戦＝高橋（左）が垣田を大外落で破る

を払巻込で降すと、3回戦では同じ大学生の香川大吾（東海大）と対戦。互いに技が出ず、指導3で並ぶと、前に出てきた香川を上田が隅落で倒して技有を奪う。上田はそのまま逃げ切って優勢勝を収め、準々決勝進出を決めた。



3回戦＝上田（左）が香川から隅落で技有を奪う



3回戦＝王子谷（右）対井上



3回戦＝西潟（上）はウルフに浮落で一本勝ち

▽第3ブロック
今年4月に行われた全日本選抜体重別選手権で優勝し、波に乗る西潟健太は、野村幸汰（三光不動産）から払腰で有効を奪うと、そのまま袈裟固に押さえて一本。3回戦ではウルファロン（東海大）を強引な浮落で畳に叩きつけて、2試合連続で一本勝するなど、調子の良さを見せ、ベスト8に残った。

右膝の怪我から2年ぶりに復帰した石井竜太（日本中央競馬会）は、2回戦で素早い動きから背負投、巴投を繰り出す長尾翔太（兵庫県警）



3回戦Ⅱ石井（手前）对小野。石井が大外刈で攻める

をとらえて、豪快な大外刈で降し、3回戦では小野卓志（了徳寺学園）と対戦。体格で劣る小野だが大外刈、巴投、大腰と技を連発して休まない。石井はかろうじて堪えて大外刈で反撃するが、両者ポイントにならない。後半、防戦一方になる石井だったが、指導差で辛くも勝利。最後まで果敢に攻め続けた小野には場内から大きな拍手が送られた。

▽第4ブロック
昨年準優勝の上川大樹（京葉ガス）は、全日本選抜体重別選手権を左膝の靭帯損傷で欠場し、これが復帰戦。2回戦で鈴木誉広（ALSOK）を内股の技有から横四方固で押



3回戦＝上川（左）が出足払で百瀬を崩す

さえ、合技一本勝。3回戦は学生時代からライバルとして戦い、手の内を知り尽くした百瀬優（旭化成）との顔合わせ。試合中盤、上川が出足払で百瀬の体勢を大きく崩すが、惜しくも決まらない。その後は、技が出ず、膠着状態が続く。勝負は判定にもつれ込み、上川が3対0で勝利。

昨年の世界選手権で準優勝し、重量級期待のエースである七戸龍（九州電力）は、初戦（2回戦）で小兵の海老泰博（旭化成）に大外刈の技有と横四方固の合技で勝利。続いて対戦の穴井亮平（東海大熊本星翔高教）を大内刈の有効で破って、世界2位の地力を見せつけ、準々決勝進出を決めた。



3回戦＝七戸（左）が大内刈で穴井から有効

準々決勝

原沢久喜 ○内股 高橋和彦

原沢が右、高橋が左のケンカ四つ。互いに組手争いが続くが、試合開始1分、組み合わないとして両者に指導。3分過ぎには技が出ない2人に再び指導がつく。直後、原沢が高橋の奥襟を掴み、得意の組手から内股を放つと、高橋は反応する間もなく背中から畳に落ちて勝負あり。

王子谷剛志 ◎出足払 上田轄麻

王子谷が右、上田が左のケンカ四つ。試合序盤から組手争いが続くが、両者とも十分な形が作れない。開始2分30秒、組み合わないとして2人に指導。その後も互いに攻め手を欠く中、技が出せない上田に3つ目の指導がつく。後がない上田は、王子谷に小内刈を仕掛けていくが不発。逆に、技の戻りを狙って王子谷が絶妙なタイミングで出足払を仕掛けると上田はたまたらず畳に落ちて有効。このポイントを守り切り、王子谷が準決勝に進出した。

西潟健太 ○合技 石井竜太

試合開始直後から石井が積極的に前に出る。開始32秒、石井が大内刈で攻めたところを、すかさず西潟が返し、一本かと思われたが、審判の「待て」が先にかかってしまったため、取り消されて仕切り直し。西潟は気持ちを途切らせることなく払腰で技有を奪う。直後、石井も負けじと、西潟の支釣込足を浮落で返して技有を奪い返す。石井はそのまま抑込に移行するが、これを西潟がうまく返し、逆に抑込に入る。必死に抵抗する石井だが、西潟の横四方固から逃れられず、合技一本。西潟が激戦を制した。

七戸龍 ○大内刈 上川大樹

共に世界選手権で実績のある両者。白熱した好勝負が予想された注目の一戦の終幕はあっけなく訪れた。試合開始12秒、先に十分な組手になった七戸が、得意の大内刈を、釣り手を離して仕掛けにいくと、上川は何の抵抗も出来ないまま背中から畳に落ちて一本。誰も予想できなかった秒殺劇に館内が驚きと興奮でどよめく。電光石火で勝利した七戸は、体力を温存した状態でベスト4に駒を進めた。



原沢(下)対高橋。原沢の内股が決まる



有効となった王子谷(左)の出足払



西潟(上)対石井。西潟が横四方固に入る



七戸(右)対上川。七戸が大内刈で一本

準決勝

原沢久喜 ③僅差 王子谷剛志

学生時代から鎬^{しのぎ}を削ってきた2人。昨年、王子谷に一本負を喫し、今年には負けられない原沢。連覇に向けて正念場の王子谷。互いに右組での相四つ。組手争いを有利に進める原沢は先に技を仕掛けて、王子谷の得意な間合い、組手を許さず、技を出す隙を与えない。技が出せない王子谷に指導が3つ重なる。後がない王子谷は残り20秒で渾身の大外刈を仕掛けるも、原沢は、なんとかこれを堪える。試合は指導の差で原沢が昨年の雪辱を果たし、自身2度目の決勝に進んだ。



準決勝＝原沢（右）が組手で王子谷を圧倒する



準決勝＝七戸（左）対西潟。七戸が小外刈で一本

七戸龍 ○小外刈 西潟健太

七戸は過去5戦全敗と相性が悪く、「七戸キラー」の異名を持つ西潟と対戦。お互いに慎重な立ち上がりから試合が進む。開始1分35秒、十分な組手になるも警戒して技が出せない七戸に指導が与えられる。その後、機^{うかが}を窺う両者だが、開始3分、七戸が前襟を掴んでいた釣り手を離して西潟の背中を掴むやいなや、体を預けて奇襲気味に小外刈。これが見事に一本となり、ついに苦手の西潟を破った七戸が、初の決勝進出を決めた。

決勝

原沢久喜 ◎小外刈 七戸龍

互いに準決勝でライバルを破って勝ち上がった2人。どちらが勝っても初優勝となる顔合わせは両者、右組の相四つ。原沢は七戸に対し、釣り手を巧みに使って動きを封じる。開始1分、それを嫌がった七戸が首抜き指導。40秒後、七戸が原沢の奥襟を掴んで攻めると、道着で原沢の頭が下がる格好となり、七戸にブロックの指導がつく。組手で優位に立つ原沢は要所で技を出し、内股や払腰で七戸を揺さぶる。開始4分、原沢が内股で攻めると、七戸の体が前に崩れる。七戸は持ち堪えて体勢を立て直すと、やや強引に大内刈を仕掛ける。原沢はこれを組み止めて、小外刈で返し、有効。残り時間で巻返しを狙う七戸だが、原沢は冷静にいなし、技を出させないまま試合終了。原沢が3度目の全日本挑戦で初の栄冠を手にした。



右、七戸（左）が大内刈を狙う上、原沢（右）が払腰で攻める



決勝Ⅱ原沢（右）対七戸。原沢の小外刈が有効

冷静さを身に付け、日本の頂点へ

◎優勝Ⅱ原沢久喜選手（東京・日本中央競馬会）

「最近是国内のタイトルが取れていなかったので一つ取れてホッとしていますし、うれしいです。今日は高橋選手に勝ってから波に乗れました。攻守の駆け引きを意識して練習していたのですが、今日はそれがうまくいきました」

初出場した2年前にも決勝の舞台は経験したが、穴井隆将の巧みさの前に屈している。

「2年前の決勝戦は初出場でしたし、落ち着いて自分の柔道が出来なかったのですが、今回は冷静に自分の柔道を出すことが出来ました」
準決勝では過去一度しか勝利していない王子谷剛志を圧倒した。



「王子谷選手はずっと意識していた相手でした。今まで何回対策しても負け続けて、ようやく練習してきたことが出せました」

決勝での七戸戦では組手争いを制して、常に優位に試合を進めた。

「七戸選手は距離をとると大内刈、内股などの強力な技があるので、距離を詰めて、先に先に仕掛けることを意識しました。近間では自分に分があると思っていました。奇麗な柔道ではなかったと思いますが、気持ちだけで戦ったような感じです」

全日本選手権についての特別な思いも語ってくれた。

「一柔道家として、やはり全日本は夢の大会です。今回の優勝はいろいろな人の夢を背負って勝った価値があります」

初優勝を飾った原沢だが、その目は早くも先を見据えている。

「喜ぶのは今日・明日くらいにして、また次に向けてしっかりやっていきたいと思っています」

関係者・出場選手コメント



準優勝＝七戸龍選手

◇準優勝Ⅱ七戸龍選手（九州電力）

「自分の長所である攻撃的な柔道を出そうという思いで試合に臨みました。調子も良かったですし、優勝できなかったことについては悔しい一言です。原沢選手に組手を抑えられてしまい、思い通りに動けませんでした。今後は自分の組手に出来なかったときの対応を考えないといけません」

▽3位Ⅱ王子谷剛志選手（旭化成）

「コンディションには問題ありませんでした。今の実力はこんなものだったということです。連覇に対してのプレッシャーもありましたが、それは言い訳にしかありません。原沢選手の対策はしていましたが、選抜体重別大会で勝って、心のどこかに隙がありました。次に当たったら借りを返したいと思っています」

▽3位Ⅱ西潟健太選手（旭化成）

「調子は良かったですし、準決勝までは試合内容も良かったと思います。敗因はまだ整理できていません。七戸選手に対する得意意識はありませんでした。危ないぞ、という意識を持って試合に臨みましたが、だめでした。昨年ベスト4だったので、それより上に行きたかったです。全日本制覇は柔道家にとつての夢。ベスト4では満足できないのでいつか優勝したいです」

▽5位Ⅱ高橋和彦選手（新日鐵住金）

「コンディションは悪くなかったのですが、気を抜いた結果です。原沢選手は強かったです。個人的には出場選手の中でも一番だと思っています。組手でも、二手先を読まれているようでした。組手で負けましたね」

▽5位Ⅱ

石井竜太選手（日本中央競馬会）

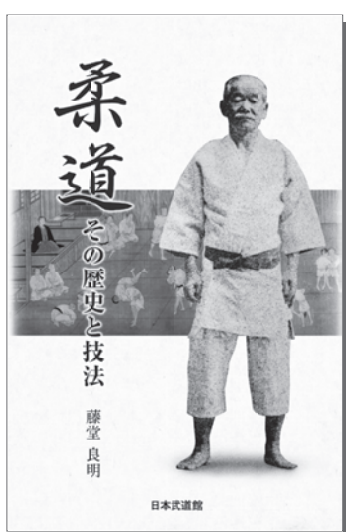
「技の勢いで身体が返ってしまいました。西潟選手は、そこを決めにき

好評発売中!

柔道 その歴史と技法

筑波大学体育系教授 藤堂 良明 著

「原点に帰る」には、「原点を知る」必要がある。



四六判・上製・330頁・本体2,400円＋税

柔道の歴史を振り返りつつ、その技法が、どのように形作られてきたのかを、丁寧に解説しています。



武道の稽古は、技を通して精神を磨き、やがて社会のためになるという教育の道でもあった。時代は移り変われども、日本の伝統に培われた「武道としての柔道」を見失わないでいただきたいと願うものである。(本書「あとがき」より抜粋)

目次

- | | | |
|--|--|---|
| <p>第一章 組討ちの起こりと技法
 体術の起こりと技法
 組討ちの体系化と技法</p> | <p>第三章 講道館柔道の歴史と技法
 講道館柔道の創設と技法
 嘉納治五郎の乱取開発
 講道館柔道の行事と整備
 警視庁武術大会の勝利と技法
 学校体操への柔道導入の試み
 学校における柔道普及の実態
 高専柔道の起こりと技法
 嘉納治五郎の他武道への接近
 精力善用国民体育の創案と技法
 全日本柔道選士権大会の開催と技法</p> | <p>第四章 第二次世界大戦後の柔道復活と技法
 第二次大戦中の柔道界と技法
 第二次大戦後の柔道禁止と復活
 格技柔道から武道柔道へ
 女子柔道の競技化と技法</p> |
| <p>第二章 柔術諸流派の歴史と技法
 竹内流腰廻
 関口新心流柔術
 起倒流柔術
 起倒流柔道
 直信流柔道
 真之神道流柔術
 天神真楊流柔術</p> | <p>第五章 柔道技法の変遷と国際化への課題
 柔道技法の変遷と特徴
 柔道の国際的普及と発展
 段位制度の国際比較
 柔道の国際化と課題</p> | |



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
 ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
 日本武道館出版広報課
 までどうぞ!

TEL03(3216)5147
 FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）



日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット
（B5判・上製・DVD付・336頁）

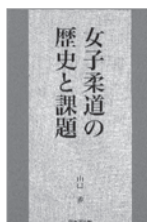


役に立つ 少年柔道指導法

講道館道場指導部課長

向井 幹博 著

（A5判・並製・DVD付・414頁）



女子柔道の 歴史と課題

筑波大学体育系准教授

山口 香 著

（四六判・上製・412頁）



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

（B5判・並製・236頁）



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

（四六判・上製・370頁）



柔道は すばらしい

柔道塾紀柔館館長

腹巻 宏一 著

（四六判・上製・310頁）



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

（四六判・上製・376頁）



武道 子どもの心を育む

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

（四六判・上製・410頁）



柔道の国際化 一その歴史と課題

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

（四六判・上製・552頁）



嘉納治五郎師範に学ぶ

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

（四六判・上製・292頁）



田知本愛 悲願の初優勝

節目となる第30回の皇后盃全日本女子柔道選手権大会(主催〓講道館、全日本柔道連盟)が4月19日、横浜文化体育館において開催された。推薦選手2名と各地区から選出された34名、計36名が出場し、白熱した試合が展開された。

決勝戦は、昨年と同じ田知本愛(A L S O K)と山部佳苗(ミキハウス)の対戦となり、田知本が旗判定(3-0)で勝利し、10度目の挑戦で悲願の初優勝を果たした。3位には山本沙羅(大阪体育大)と市橋寿々華(大阪府警)が入った。

大会終了後、柔道世界選手権女子日本代表発表記者会見が行われた。未定であった78kg超級の代表選手として、山部選手とともに田知本選手が選ばれた。

試合は、国際柔道連盟試合審判規定で行われ、試合時間は6分間、勝敗が決しない場合、延長戦は行わず旗判定となる。

大会では、昨年準優勝の田知本愛、昨年優勝の山部佳苗、それを追う市橋寿々華の他に、昨年の講道館杯78kg級優勝の梅本真美(環太平洋大)、



開会式

第30回を迎えたことを記念し、開会式終了後に、歴代優勝者10名が紹介され、大会に華を添えた。

第17～25回に前人未だの9連覇を達成した塚田真希さんが紹介されると、場内からは歓声が上がリ、大きな拍手が送られていた。



9連覇を達成した
塚田真希さん

皇后盃全日本女子
柔道選手権大会歴代優勝者

大会回数

優勝者

第1回 八戸かおり

第2～7回 田辺陽子

第8～11回 阿武教子

第12・13回 二宮美穂

第14回 阿武教子

第15回 山下まゆみ

第16回 薪谷翠

第17～25回 塚田真希

第26回 杉本美香

第27回 山部佳苗

第28回 緒方亜香里

第29回 山部佳苗

※優勝者名は当時の氏名

第30回皇后盃全日本女子柔道選手権大会

大会初出場となった富田若春（埼玉栄高）等に注目が集まった。

■序盤戦

▽第1ブロック

梅木真美は初戦の2回戦で奥本華月（新田高）に崩上四方固で一本勝すると、3回戦で新井千鶴（三井住友海上）に小外刈で有効をとり、4回戦に勝ち上った。

連覇を狙う山部佳苗は、2回戦で烏帽子美久（JR東日本）と対戦、払腰と後袈裟固の合技一本で退けた。続く3回戦では武居沙知（国際武道大）と対戦、開始早々払腰で一本。危なげなく勝ち進んだ。

▽第2ブロック

安松春香（ALSO K）は、2回戦で橋口ななみ（大阪府警）を僅差で降し、3回戦では井上愛美（九州旅客鉄道）を判定で破り、4回戦へと駒を進めた。

山本沙羅は2回戦では山本恭奈（オフィスコレーション）に大内刈で一本勝し、3回戦では昨年3位の岡村智美（コマツ）を払腰一本で降し勝利、ベスト8へと駒を進めた。

▽第3ブロック

朝比奈沙羅（東海大）は、4日前に体調を崩し、コンディションに不安が残るものの、2回戦では鍋倉那美（大成高校）を判定で、3回戦では泉真生（山梨学院大）を苦しめながらも僅差でそれぞれ退け、4回戦進出を決めた。

昨大会3位の市橋寿々華は初戦で、橋高朱里（金沢学院大）に横四方固で一本勝を収め、続いて下田美紗季（自衛隊体育学校）には判定で試合を決めた。

▽第4ブロック

富田若春は現在、埼玉栄高校3年生で皇后盃初出場、高校生らしい積極さで攻め続けた。滝川真央（日本大）には体落で一本勝。千葉英里子（環太平洋大）には払腰で一本をとり勝利。富田の4回戦進出は大会の注目を集めた。

昨年準優勝の田知本愛がここで登場。2回戦は佐藤史織（山梨学院大）を出足払からの横四方固、合技一本で破り、続いて3回戦は高山莉加（三井住友海上）を出足払の技有で降した。昨年、決勝での雪辱を晴らすべく、順当に勝ち進んだ。



4回戦Ⅱ山本(左)が安松(右)に内股を仕掛ける



4回戦＝山部(上)が見事な足車で梅木(下)を破った



4回戦Ⅱ国知本(上)が富田(下)に大内刈を決める



4回戦Ⅱ市橋(左)が朝比奈(右)を崩す

■4回戦(華々決勝)

山部、見事な足車

山部佳苗 ○足車 梅木真美

これまで順当に勝ち進んできた梅木の一瞬の隙をつき、山部が梅木の襟をつかみ、引きつけ、足車を掛ける。これが見事に決まり、一本。開始1分で試合を決めた。

山部が3度目の優勝を目指し、準決勝に駒を進めた。

◇5位Ⅱ梅木真美選手(環太平洋大)

「山部選手との試合では、組手が思うようにできませんでした。しかし、この大会では階級が上の選手と試合ができるので、とてもいい経験になります。今後、力負けしないよう、一つ一つトレーニングを行い、体力をつけたいです」

旗判定の末、山本勝利

山本沙羅 ○判定 安松春香

消極的な試合展開となった山本対安松。左の奥襟をねらう山本、それを必死に抑える安松。互いに決め手に欠け、指導を受けた。そのまま試合は終了。山本が判定(2-1)で勝利し、準決勝に進んだ。

朝比奈、無念の敗退

市橋寿々華 ○判定 朝比奈沙羅

互いに手の内を探り合い、譲らない。試合は膠着状態になり、互いに指導を受ける。場内から檄が飛ぶ中、市橋が攻勢をかける。支釣込足で朝比奈を崩すが、朝比奈なんとか逃れる。市橋、朝比奈の攻防は最後まで続くが、試合は終了。市橋が、判定(2-1)で勝利した。

富田、健闘の5位入賞

田知本愛 ○大内刈 富田若春

本大会注目の富田、これまでオール一本勝で進んできた。優勝候補である田知本に対しても果敢に足技で攻める。しかし、田知本が富田の両襟をとって釣り手を殺し、大内刈を決める。これが技有となり、富田の猛攻むなしく試合終了。

◇5位Ⅱ富田若春選手(埼玉栄高)

「失敗してもいいからと攻めにいったが、田知本選手を崩すことが出来なかった。田知本選手との実力差はかなりあると思う。少しでも差が埋まるよう努力したい」

■準決勝

山部、圧巻の払腰

山部佳苗 ○払腰 山本沙羅

山部の一方的な展開が続く。払腰で攻める山部に対して、山本は技が出ない。開始約1分、山本に指導1。山本は仕掛けに出るが、これを山部は見事に潰す。最後は、スタミナ切れの山本の奥襟をとった山部、山本がこれに抗い頭を上げようとしたその刹那、山部の払腰が決まり、見事一本勝。決勝戦に上り詰めた。

◇3位Ⅱ山本沙羅選手(大阪体育大)
「自分の柔道は積極的に攻めるスタイルです。しかし、山部選手との試合では、自分の柔道が全く出来ませんでした。組んでいて、自分が逆らった時に決められてしまいました。気持ちが足らなかつたのだと思います。自分は挑戦者なので、次回は精一杯自分の柔道が出来るようにしたいです。今後の課題としては、終盤になると疲れ易いので、技を掛けきることが出来るよう練習をしていきたいと思っています」



準決勝＝山部（右）が奥襟をつかみ、圧巻の払腰

準決勝＝田知本（左）が払腰で攻める



田知本、競り勝つ

田知本愛 ○判定 市橋寿々華

前半、田知本が支釣込足、払腰で攻めるが、これに堪える市橋。その後も払腰で攻める田知本に対し必死に躲す市橋。互いに決め手に欠け、指導1、指導2を受ける。市橋の引手をとる田知本、両者探り合いを続けるが判定へとつづれた。

田知本が判定(3-0)で市橋に競り勝ち、決勝に進んだ。

◇3位Ⅱ市橋寿々華選手(大阪府警)

「準決勝では、右手を動かすことが出来ませんでした。田知本選手は本当に強いです…。だけど、負けたくはなかつたです。2年連続で3位となつてしまいましたが、準決勝では去年より攻められたと思います。今後練習を積み重ね、優勝を目指して頑張りたいと思います」

決勝＝田知本（左）と山部（右）の攻防



昨年大会と同じ対戦となった決勝戦。しかし、今大会の勝ち上がり方は対照的であった。オール一本勝で上がってきた山部に対し、田知本は4試合のうち一本はわずかに1つ。他は技有2つと判定であり、苦しみながらの決勝進出である。

山部は2連覇・3度目の優勝を目指し、田知本は10度目の挑戦で初優勝を目指した。

決勝

田知本、判定の末、勝利

田知本愛 ●判定 山部佳苗

場内から大歓声が沸く中、決勝戦が始まった。互いを知り尽くしている両者、手の内を探り合っただけ、がっちり組み合い全く動かない。観客から檄が飛び、再び歓声が沸き上がる。両者技が出ず、互いに指導を受ける。田知本が支釣込足、払腰で攻めるも互いに釣り手を引っ張り合い、場外へ。その後も、互いに隙を狙い、組み合ったまま動かない。互いに2度目の指導となる。山部が何度か攻めるものの、田知本に潰される。両者技が出ない。残り26秒で互いに3度目の指導。勝敗は旗判定に託された。結果、田知本が判定（3―0）で勝利、初優勝に輝いた。

◆準優勝Ⅱ 山部佳苗選手（ミキハウス）
「悔しい気持ちで一杯です。過日の全日本選抜柔道体重別選手権大会では決勝進出できなかったのが今回は勝つしかなかった。自分自身悔しいです。自分の柔道ができなかったこと、技を掛けるのが遅かったこと、これが決勝での敗因です」

◎優勝Ⅱ田知本愛選手（ALSOK）



「信じられないです。皇后盃で初優勝することができ、大変嬉しく思います」

優勝の要因に妹の田知本遥選たちもとほるか手の支えもあつたという。

「妹がすごくサポートしてくれました。対戦相手を想定して一緒に練習もしてくれました」

昨年は決勝で同じ対戦相手の
 山部選手に敗れた皇后盃。今回、
 どのような思いで決勝に挑んだ
 のであろうか。

「去年は一本負で非常に悔しい
 思いをしたので、今回は必死に
 粘りました。反省点もあります
 が、前よりはしぶとく出来たと
 思います。去年はあせて負け
 てしまった。今年は焦らないよ
 うに意識しました。終盤では、

すかされてもいいからと悔いが残らないよう挑みました」

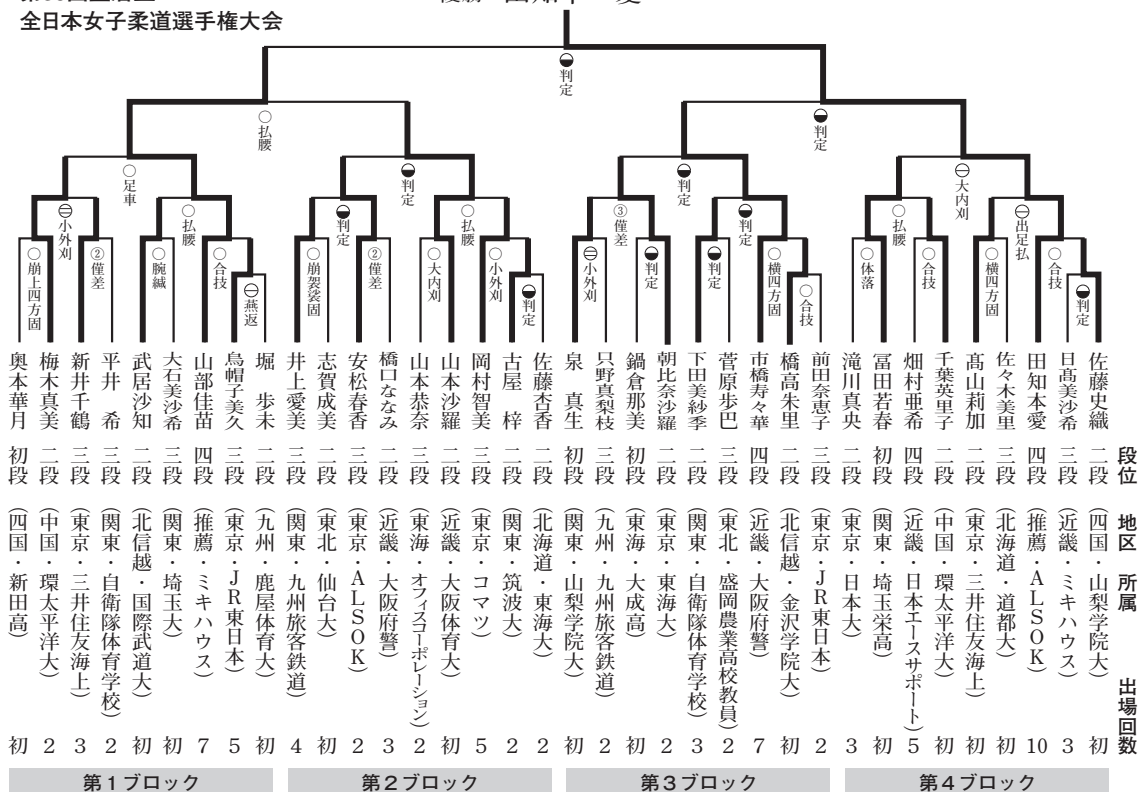
10回目の挑戦で初めて掴んだ優勝となった。

「初めて優勝できて嬉しいです。今はうまく感情を伝えられませんが。世界での試合とは異なり、日本人の方が技も分つていて競り合う場面も多かった。初優勝ということで、周りも喜んでくれ、さらに嬉しくなりました」

悲願の初優勝を手に入れた田知本選手。今後どのような目標を掲げるのだろうか。

「世界選手権代表に選ばれたら、いままでの柔道が出来るよう挑みたいですね。また、来年のリオオリンピックに向けて、優勝できるように一つ一つ課題・大会をクリアしていきたいと思います。今回、堂々と日本一になることが出来たので、これを世界一につなげたい。世界で勝つために、技をつなげるのが自分の目標。これからも練習を積み重ねたいですね」

優勝 田知本 愛



好評発売中

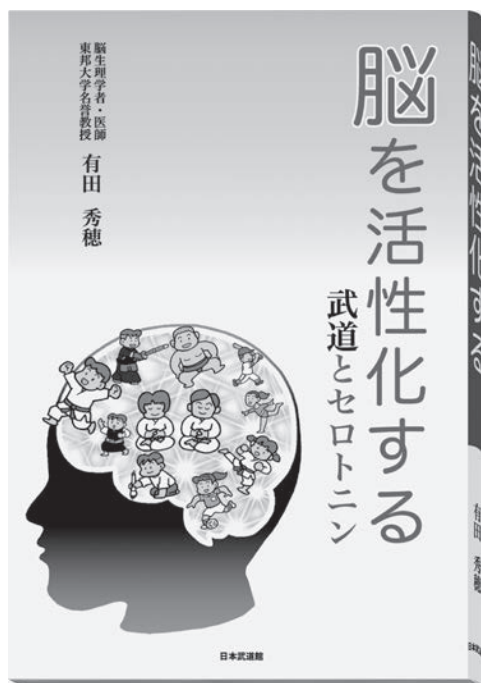
脳生理学者・医師
東邦大学名誉教授

有田 秀穂 著

脳を活性化する

武道とセロトニン

人間の心身を安定させ、「無心」の状態を作るセロトニン神経―その研究の第一人者が、丹田呼吸法を手懸かりに、武道や禅、日本文化を題材として、誰もが
できる脳を活性化する方法をわかりやすく解説。



A5判・並製・346頁・1600円+税

有田 秀穂
(ありた・ひでほ)

昭和23年(1948)東京都生まれ。東京大学医学部卒業。東海大学医学部助手、筑波大学基礎医学系講師、東邦大学医学部教授を経て、現在、東邦大学名誉教授。脳生理学者、医師。セロトニン道場代表。



主な内容

第1部 脳の活性化とは

坐禅とセロトニン

ストレスとしごき

空海はセロトニン活性の達人

『弓と禅』に学ぶ身体トレーニング

沢庵の「不動智」とワーキングメモリー

不動明王と心の三原色

『弓と禅』に学ぶ無意識の自己意識

悪夢を消すには?

精進料理とセロトニン合成

「茶の湯」とセロトニンの生活

「自然に体が動いた」を脳科学で解く

勝海舟の「明鏡止水の心」を脳科学する

「武道の礼法」は社会脳を育む

相撲の「四股」は品性を育む

書道も心技体の人間修行

アンドロゲンと闘争心

日本の祭にはセロトニンがたっぷり

スキップとオキシトシン

空手の稽古は坐禅修行に通じる

脳は「丹田呼吸法」をどう操るか

試合における最適な覚醒状態

サイエンスは「気」をどこまで解明したか

仙人術を脳科学する

第2部 対談「武道で脳を活性化しよう」

日本武道館会長

松永 光

東邦大学名誉教授

有田 秀穂

：他

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）



日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

（翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット）

（B5判・上製・DVD付・336頁）

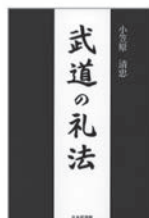


武士道に学ぶ

皇學館大学教授

菅野 覚明 著

（四六判・上製・344頁）



武道の礼法

弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家

小笠原清忠 著

（四六判・上製・278頁）



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

（B5判・並製・236頁）



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

（四六判・上製・370頁）



<増補版> 私も武道経験者です

月刊「武道」記者

吉野 喜信 著

（四六判・上製・326頁）



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

（四六判・上製・376頁）



武道・ スポーツの真髄

スポーツドクター

辻 秀一 著

（四六判・上製・248頁）

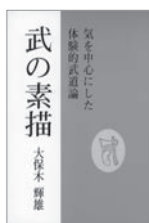


武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

（四六判・上製・410頁）



武の素描

埼玉大学教授

大保木輝雄 著

（四六判・上製・220頁）

第59回全日本銃剣道優勝大会

一般第1部
新潟が初優勝

防衛省第1部は16普連(長崎)が制す



一般第1部決勝・大将戦＝新潟・猪(左)の下胴が決まる

第59回全日本銃剣道優勝大会は、4月19日に日本武道館で開催された。試合は、一般第1部(都道府県連盟、一般第2部(実業団、クラブ、道場、大学等)、防衛省第1部(陸上指定)、防衛省第2部(海、空、第1部以外の陸上)の4部門に分かれて行われ、計226チームが参加した。

一般第1部は、新潟が香川を退けて初優勝を達成、一般第2部はALSO K A(東京)が2大会ぶりに優勝を遂げた。防衛省第1部は、第16普通科連隊(長崎)が21大会ぶりに2度目の優勝、防衛省第2部は玖珠駐屯地(大分)が12大会ぶり2度目の優勝を手にした。

試合はトーナメント方式(一般の部のみ1回戦でリーグ戦を採用)、試合時間3分、3本勝負で争われ、時間内に勝負がつかない場合は旗判定により勝敗を決した。

一般第1部(5人制・22チーム)

1回戦では7グループに分かれてリーグ戦が行われ、各リーグ優勝チームが決勝トーナメントに進んだ。4強には、前回3位の新潟と滋賀、

優勝経験のある香川、3連覇を狙う神奈川が勝ち残った。

新潟は、1回戦(リーグ戦)で北海道を4-1、群馬を3-2、2回戦で東京を3-2で降し、準決勝で神奈川と対戦。先鋒戦、神奈川は新潟にノドで先制されるも、上胴二本を返して勝利した。次鋒戦・中堅戦は、新潟の判定勝ち。副将戦は神奈川が上胴二本で勝利し、2-2と並ぶ。決勝進出にかかる大将戦は、新潟が判定勝ちし、3-2で試合巧者ぶりを見せ、決勝に駒を進めた。

一方、香川は、1回戦で岩手を3-2、福井を4-1、2回戦で福岡を3-2で降し、準決勝で滋賀と対戦。香川の先鋒は、上胴で二本勝ち。次鋒は、判定勝ち。中堅は上胴を先取し一本勝ち。副将戦は、判定で滋賀。大将戦は、香川が上胴で一本勝ちし、4-1で決勝に進出した。

▽決勝

新潟

3-2

香川

野口将史

上-下判

西尾圭人

大谷竜輝

上-

堀江知弘

滝沢元気

判-

豊嶋辰弥

高井優樹

上上

宮本晃典

猪友一

下-

大西孝治



一般第1部優勝=新潟県銃剣道連盟

先鋒戦、新潟・野口は香川・西尾に開始早々、下胴で先制されたが上胴を決め取り返す。そのまま膠着状態が続いて判定となり、西尾が勝利した。次鋒戦は新潟・大谷が果敢に攻め、狙い定めた上胴で一本勝ち。中堅戦、新潟・滝沢対香川・豊嶋は、遠間からの激しい攻防が続くも、両



一般第2部決勝・大将戦＝
ALSOK A・飯嶋（左）対国士館大A・稲



一般第2部優勝＝ALSOK A（東京）

者決めきれず、滝沢の判定勝ち。副将戦は、香川・宮本が、新潟・高井から上胴を二本決めて星が並んだ。勝負を分ける大将戦、新潟・猪が香川・大西の放った下胴を捌いて外し、間髪を入れずに下胴を決める。そのまま時間となり、猪が一本勝ち。その初優勝へと導いた。

◎優勝Ⅱ新潟・猪友一監督

「自衛隊時代は優勝大会も選手権大会も準優勝止まりでしたが、やっと優勝できました。信じられません。大会前半は、滝沢選手と彼の教え子である若い選手に随分と助けられま

した。後半からは、私も勝利に貢献できたと思います」

一般第2部（3人制・17チーム）

1回戦では5グループに分かれてリーグ戦が行われ、各リーグ優勝チームが決勝トーナメントに進んだ。5強には前回3位のALSOK A

（東京）、連覇を狙う国士館大A（東京）、岐阜クラブ（岐阜）、豊川クラブA（愛知）、内宮運輸機工（東京）が揃った。

準決勝、ALSOK Aと豊川クラブAの対戦は、ALSOK Aの

先鋒が判定勝ち、中堅が下胴を決めALSOK Aが2―1で勝利した。

国士館大Aは、内宮運輸機工を退けた岐阜クラブと対戦、国士館大Aは、先鋒と中堅がそれぞれ上胴を二本決めて、大将が上胴で一本勝ち。国士館大Aが3―0で大勝利決勝に駒を進めた。

▽決勝

ALSOK A 2―1 国士館大A
（東京） （東京）

三浦玄徳 上上― 渡辺一矢

松浦 備 ―上上 野田峻祐

飯嶋 一 上上― 稲 大貴

先鋒戦は、両者の激しい攻防が続いたが、一瞬の隙をついたALSOK A・三浦が上胴を決め、続けて二本目も上胴を決めて勝利した。

中堅戦、国士館大A・野田は、上胴を決めて先制。試合は野田のペースとなり再び上胴を決めて勝利。勝敗を決する大将戦、ALSOK

A・飯嶋と国士館大A・稲の戦いは、近間での攻防を飯嶋が制し、上胴を決める。後がなくなり必死に攻める稲だったが、飯嶋はこれを冷静に木銃で捌き、二本目も上胴を決めて勝利した。



防衛省第1部決勝・中堅戦＝
16普連・北（左）が二本目の下胴を決めて勝負あり

◎優勝ⅡALSO K・松浦備監督
「前回優勝を逃したので、無事に優勝旗を奪還できて良かったです。トーナメントは全て厳しい戦いでした。選手は本調子ではありませんでしたが、お互いうまくカバーし勝利に繋げることが出来ました」

防衛省第1部（5人制・66チーム）

昨年の選手権優勝者である、蘭田泰之を擁する16普連（長崎）は、初戦（2回戦）で、11普連（北海道）を4―1、3回戦で13普連（長野）

を5―0、4回戦で32普連（埼玉）を4―1で降した。さらに、準々決勝では40普連（福岡）を3―2の僅差で降し、勝ち上がった。

4強は、16普連、4特連（福岡）、12普連（鹿児島）、22普連（宮城）。

準決勝、16普連対22普連は、先鋒の16普連・永富が上胴で二本勝ち。

次鋒戦は22普連・黒木がお返しとばかりに下胴二本を決め取り戻す。中堅戦は16普連・北の判定勝ち。副将戦は22普連・高橋が判定で勝利し、再び星が並んだ。勝負を決する大將戦は、16普連・蘭田が間合を詰めた後、離れ際に上胴を決め一本勝ち。

16普連が3―2で決勝に進出した。

4特連対12普連は、先鋒戦、次鋒戦で互いに1勝、続く中堅戦、副将戦でも星を分け合い、勝敗は大將戦に持ち越された。大將戦では4特連・平島が奮闘し、判定勝ちで決勝進出。

▽決勝
16普連（長崎）5―0 4特連（福岡）

永富 滋 下― 江口俊太郎
岩永健太 判― 川本 忍
北慎一郎 下上― 堀田幸介
中前圭輔 上下―上 日高雅光
蘭田泰之 上上― 平島直樹



防衛省第2部決勝・副将戦＝玖珠・齋藤（左）対松山・角南

先鋒戦は、16普連・永富が開始早々、下胴を決めて一本勝ち。続く次鋒戦は16普連・岩永が判定勝ち。

命運を左右する中堅戦は、16普連・北が、4特連・堀田の突きをかわし、すかさず下胴を決める。続けて二本目の上胴も決めて勝ちを収めた。この時点で16普連の優勝が確定。

副将戦は、16普連・中前が上胴で先制。4特連・日高は上胴で取り返すも、さらに中前の下胴が決まり二本勝ち。大將戦は、16普連・蘭田が上胴を二本重ね、勝利した。16普連

は5―0で完勝し、21大会ぶりに優勝に輝いた。

◎優勝Ⅱ16普連・斎藤敏之監督
「国体優勝メンバーの北・蘭田をはじめ、若手もよくやってくれました。決勝で対戦した4特連には九州大会で負けています。相手を分析して、沈着冷静・勇猛果敢に戦いました」

防衛省第2部（5人制・113チーム）
ベスト4には玖珠（大分）、松山（愛媛）、福岡（福岡）、空岐阜（岐阜）が揃った。玖珠は5―0で岐阜を、松山は3―2で福岡を降し、それぞれ決勝に進んだ。

▽決勝
玖珠（大分）4―1 松山（愛媛）
平野智博 判― 市川大作
岩本靖宏 上上― 松浦友樹
潮満亮太 上上―上 宮本寛仁
齋藤正頼 コ上―ノ 角南信幸
鮫島信幸 下上― 伊東孝倫

先鋒戦は、松山・市川が判定勝ち。次鋒戦は玖珠・岩本が上胴で先制、さらに松山・松浦の守備の間隙を見逃さず二本目も上胴を決めて勝利した。中堅戦は、両者一步も譲らない展開。玖珠・潮満が上胴で先制する

は5―0で完勝し、21大会ぶりに優勝に輝いた。

◎優勝Ⅱ16普連・斎藤敏之監督
「国体優勝メンバーの北・蘭田をはじめ、若手もよくやってくれました。決勝で対戦した4特連には九州大会で負けています。相手を分析して、沈着冷静・勇猛果敢に戦いました」

防衛省第2部（5人制・113チーム）
ベスト4には玖珠（大分）、松山（愛媛）、福岡（福岡）、空岐阜（岐阜）が揃った。玖珠は5―0で岐阜を、松山は3―2で福岡を降し、それぞれ決勝に進んだ。

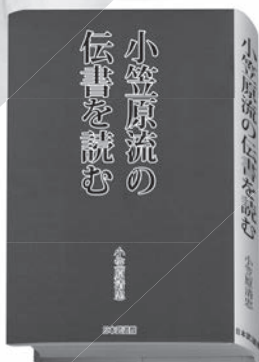
▽決勝
玖珠（大分）4―1 松山（愛媛）
平野智博 判― 市川大作
岩本靖宏 上上― 松浦友樹
潮満亮太 上上―上 宮本寛仁
齋藤正頼 コ上―ノ 角南信幸
鮫島信幸 下上― 伊東孝倫

先鋒戦は、松山・市川が判定勝ち。次鋒戦は玖珠・岩本が上胴で先制、さらに松山・松浦の守備の間隙を見逃さず二本目も上胴を決めて勝利した。中堅戦は、両者一步も譲らない展開。玖珠・潮満が上胴で先制する

小笠原流の伝書を読む

弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家

小笠原清忠 著



四六判・上製・322頁・本体2400円＋税

◎ご注文・お問い合わせ◎

日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
<http://www.nipponbudokan.or.jp>
インターネットでのご注文は、「武道館単行本」と検索！

鎌倉時代から江戸時代にいたる武家礼法で、弓術、弓馬術と結びついた小笠原流。小笠原家の歴史をその起源から概観し礼法の総論を述べる。



防衛省第1部優勝＝第16普通科連隊（長崎）



防衛省第2部優勝＝玖珠駐屯地（大分）



【大会結果】
▽一般第1部①新潟②香川③滋賀、神奈川
▽一般第2部①ALSO K A（東京）②国士舘大A（東京）③岐阜クラブ（岐阜）④豊川クラブA（愛知）
▽防衛省第1部①16普通連（長崎）②4特連（福岡）③22普通連（宮城）、12普通連（鹿児島）
▽防衛省第2部①玖珠（大分）②松山愛媛③福岡福岡、④岐阜岐阜

も、松山・宮本が上胴で返す。終了間際に、潮満の上胴が決まり、宮本を退けた。副将戦は、齋藤が松山・角南がノドを決めて先制。巻き返しを図る玖珠・齋藤は、後半に間合いを切ったところ、一瞬の隙をついてコテ、残り30秒で上胴を決めて二本勝ち。この時点で玖珠の勝利が決まった。大将戦も玖珠・鮫島が二本勝ちを収め、玖珠が大会2度目の優勝を飾った。

◎優勝Ⅱ玖珠・鎌田龍馬監督
「各々が精一杯力を出し、一致団結して勝ちを狙いにいきました。終始、粘り強い攻めを心がけ、最高の結果を残すことができて感無量です」

日本武道館の単行本

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

マンガ・武道のすすめ

(B5判・236頁)

マンガ・武道のすすめ

田代しんたろう



日本武道館

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化!

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。

大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。

《目次》

序章 武道のすすめ

松永光(日本武道館)／高村正彦(武道議員連盟)／有松育子(文部科学省)

第1章 いざ! 武道の世界へ

第2章 柔道のすすめ

大澤慶己／長谷川博之／腹巻宏一／吉村和郎／山内直人

第3章 剣道のすすめ

森島健男／角正武／千田重光／井上茂明／小林知洋

第4章 弓道のすすめ

森永良雄／吉本清信／宇佐美義光／柴田猛／大和田正孝

第5章 相撲のすすめ

塔尾武夫／住吉和則／下村勝彦／安井和男

第6章 空手道のすすめ

金城裕／長谷川伸一／安里廣之／山本英雄／大石武士

第7章 合気道のすすめ

多田宏／磯山博／菅沼守人／珠玖仁

第8章 少林寺拳法のすすめ

合田清一／阿達美恵子／八巻哲／松浦哲也

第9章 なぎなたのすすめ

澤田花江／梶山武子／一川治子／左村美穂子／大津博美

第10章 銃剣道のすすめ

桑原正治／兼坂弘道／遠藤守／石川慎也／北村弘之

第11章 古武道のすすめ

竹内藤十郎(柔術)／笹森建美(剣術)／加藤伊三男(槍術)／小笠原清忠(馬術)

日本武道館の歴史



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）



BUDŌ:

THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

（B5判・上製・DVD付・336頁）



武道

子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

（四六判・上製・410頁）



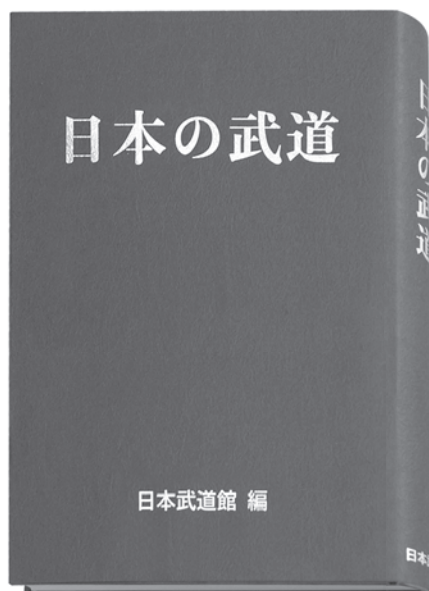
大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

（四六判・上製・376頁）

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・
少林寺拳法などさまざまな銃剣道をはじめ、
各武道統括団体の全面協力によって完成!!
一千数百年の歴史を有する
武道の全容をこの一冊に集大成!!
武道小百科事典としても役立つ
充実した巻末の資料編!!



日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）



日本武道館 編

日本の武道

日本の武道のすべてを網羅した武道関係者必携の書